

人事制度導入の意義

企業にとって「人事制度」はなぜ必要なのでしょう。英語ではHuman Resource Management（「人」資源の管理）と呼ばれています。人事制度というより、むしろ、「人材資源活用制度」と表現するのが適切だと思います。要は、「人」という資源をいかに有効に活用するか、その仕組みを作ることと考えてよいでしょう。従業員というのは、高価な機械や建物などの資産以上に企業にとっては非常に重要な「資産」です。「人事制度」は、この「人」の持つ力をできるだけ引き出すための仕組みだと定義することができます。「人」の持つ力を引き出すために、

- (1) 経営者が望む社員像、管理者像を明確にし、社内に浸透させる。つまり経営者が他社との競争に打ち勝つために社員や管理者に望んでいる成果、行動などを社内に明示し、評価するしくみです。
- (2) 社員にとっては、期待されている成果や行動を知らされ、努力すべき方向が明確になります。そして公平な評価とそれに基づく処遇がなされ、努力のし甲斐、働き甲斐が感じられるしくみです。

経営者にとっての意義

望ましい社員像を示せます

管理者の育成につながります

辞めて欲しい社員が辞めます

社員の能力向上につながります

経営改善につながります

人員整理のときの理由が明確化
します

社員にとっての意義

公平な評価がされます

能力向上の機会が得られます

働き甲斐の向上につながります

経営参加の実感ができます

モラルの低い社員が居づらく
なります

経営者、管理者の意識が変わり、
働きやすい職場となります

「企業の風土」を創ります

人事制度は「企業風土」や「企業文化」と呼ばれる組織の価値観、行動規範を作り出します。わが社では、やる気のある社員が当たり前の社員、協力する社員が当たり前、学習し向上する社員が当たり前、人事制度はそんな企業文化を育てます。